

2019年11月7日（木）午後6時半から、京都大学保健診療所1階多目的室にて、京都大学落語研究会による落語会のイベントを開催しました。

「笑いで心も体もええ感じになる」をコンセプトとして始まっためでいかる亭。おかげさまで4回目を開催することができました。

演者さんは3名とも1回生、というフレッシュなメンバーが揃い、島本助教の笑い与健康についての話も少し交えた挨拶で開演となりました。

今回は地下のオープンラボから1階の多目的室に場所を変え、健診機器に囲まれて診療用ベッドの上で落語をする、というまさに「笑い与健康」を融合した会場設営となりました。



1人目の葵家天井（てんどん）さんは、開口一番にふさわしく発声高らかに登場して、犬が人間になるという「元犬」を演じてくださいました。

2人目の道楽亭八万千（はまち）さんは、うどんを食べる姿を丁寧に表現して、「風邪うどん」を演じ、笑いを誘っていました。

3人目の葵家丈雨（じょう）さんはトリにふさわしく、1回生とは思えない演技で、話術巧みな子供が親からまんまとこづかいをもらう「真田小僧」を演じ会場を沸かせました。



今回は11人の職員さんと2名の学生さん合計13名と最高人数のご参加をいただきました。学生さん2名のうち、1人は留学生の方でした。日本の伝統文化と健康について関心のある方のように、落語も楽しめたとのことでご満足いただけたようです。



アンケートでは、内容については「1回生とは思えないうまさ」、「1回生さん、がんばってました!」、「面白かった!」などのうれしい感想をいただきました。また、集計では、ヘルシーキャンパスイベントへの参加回数が2回目以上の方が半数以上という結果も出ており、徐々にヘルシーキャンパスへの関心が高まっていると感じました。

これからも笑いという観点から健康へアプローチするイベントとして、めでいかる亭をよろしく願いいたします。

（保健診療所 山添）